# Walking Map in Gojo

## 五條代官所長屋門 -現・民俗資料館-



天誅組の変の翌年の元治元年、代官所は場所を変 えて、この地に建設された。明治維新後は五條県 庁、明治10年に五條区裁判所となった。当時の石 垣の長さから、面積は約2千平米と推定され、但 代官所より大きな規模で建設されたことが伺える。

#### 井澤宜庵宅跡



この地で医者の家に生まれた宜庵は、森田節斎 に師事したのち蘭学医広瀬元恭に入門し西洋医学

を学んだ。井澤家は五 條小学校内に位置し、 かつて校庭隅に石碑が あったが、義挙140年 の際に現在の場所へ移 動された。

379

嘉永2年五條村绘図



## 井澤宜庵墓所 -常楽院-



井澤宜庵・禮以(れい・旧姓岡田)夫妻の墓所。 墓としては珍しく両面仕様の墓・顕彰碑になって いる。篆額は鷲尾隆聚による。建立は明治23年。

#### 代官所跡 -現•五條市役所-



天誅組は8月17日夕方、千早峠を越えてこの場所 にあった代官所へ討ち入った。鈴木源内代官以下 6名が討ち取られ、幕府領は天誅組によって朝廷 直轄地となることが宣言された。

#### 五條代官基所 -極楽寺-



討たれた代官は、鈴木源内代官以下6名。 真光院殿実誉相義居士 鈴木源内正信 堅寺院忠岩光訓居士 長谷川岱助 木村祐治郎 広普院寂誉深入居士 高橋勇蔵義敬 徳隣院有誉仁恵居士 迎雲院頓覚浄生信士 黒沢儀助 敬徳院倹道良温信士 伊東敬吾

(黒沢と伊東は合祀)

居合わせた按摩の嘉吉も役人と誤認されて殺害さ れた。後日天誅組は葬儀料として金五両白米五斗 を嘉吉妻に渡している。



【ウォーキングの目安時間】五條代官所長屋門--5分--井澤宜庵宅跡--5分--井澤宜庵墓所(常楽院)--2分--五條代官所跡(五條市役所)--10分 --五條代官墓所(極楽寺)--10分--乾十郎墓所(井上院)--10分--乾十郎顕彰碑--5分--天誅組本陣跡(桜井寺)--5分--乾十郎宅跡

## 乾十郎基所 -井上院-



乾十郎の後妻亥生が西吉野町宗桧の畠山忠次郎と 再婚し、畠山ムメと改称しのちに建立したもの。 乾クニは亥生の孫にあたる。明治7年、五條小学 校の前身である積善舎があったことでも知られる。 大和新四国八十八ヶ所第68番札所。

#### 乾十郎顕彰碑



乾十郎の兄の孫にあたる材三氏など遺族と顕彰会 によって昭和12年に建立されたもの。

裏面は辞世

いましめの縄は血汐に染まるとも赤き心はなど変 わるべき

## 天誅組本陣跡 -桜井寺



天暦年間 (947~957) に桜井康成によって創建さ れたと伝わる寺で天誅組が幕藩体制下で初の「新 政府」を置いた場所。境内には貞享3年(1686) の石手水鉢があり代官役人の首を洗ったとされる。

## 乾十郎宅跡



文久年間に五條で目薬「真珠圓」の販売をしなが ら医者を営んでいた十郎は、桜井寺南門前の地に 住まいしていた。

#### 森田節斎宅跡



節斎の父文庵が若くして亡くなったために母千代 が労役婦となって節斎ら四児を育て上げた。千代 は天保元年(1830)矢島藤蔵代官に表彰されてい る。天保4年(1833)節斎は兄文作と、父の十三 回忌にあたり極楽寺に碑を建立した。儒学者節斎 の周りには堤孝亭や小林道隆、乾十郎などの五條 の知識人たちが多く集まった。

#### ■五條へ来た吉田松陰

嘉永六年(1853) 森田節斎に教え を乞いにきた吉田松陰は、堤孝亭 宅で節斎と会い、時勢や詩文につ いて論じ合った。翌日ともに泉州 を廻っている。その後松陰は八木 の儒学者谷三山を訪ね、その帰り に再び五條へ寄った。



小林道隆宅跡 本町2丁目-